

金沢マラソン2017

健康・安全

奉仕

平成29年10月29日(日)に開催された「金沢マラソン2017」に、ボランティアスタッフとして、金沢市内のJRCメンバーが参加しました。

当日の悪天候の中、各校JRC部は沿道で、ランナーのコース誘導、観客のコースはみ出し規制などを行い、地域の方と一緒にランナーに声を掛けました。



メンバーの声

金沢錦丘高校 2年 吉川瀬奈

私たちは沿道での交通整理とランナーの応援をしました。ボランティアと観客全員が一丸となってランナーを応援する姿に、とても心が温まりました。また来年も、金沢マラソンのボランティアに参加したいと思いました。

赤十字ユースのつどい2017

奉仕

国際理解・親善

12月10日(日)、「赤十字ユースのつどい2017」を石川県文教会館で開催し、JRCメンバー・青年奉仕団員・学生奉仕団員など30名が参加しました。次世代の赤十字活動を担うユースメンバーが一同に会し、合同でのボランティア活動を通じて交流を深め、各々の活動のさらなる推進を図ることを目的に開催しています。

午前中は、日赤本社青少年・ボランティア課藤枝係長から、世界の約24億人が衛生的なトイレを利用できない衛生環境の現状や、日本赤十字社がネパールやバングラデシュで行う支援について講義を受け、ユース世代の自分たちにできる支援について意見を交換し合いました。午後からは「海外たすけあい」街頭募金を金沢駅東口、近江町市場、香林坊アトリオ、片町きらら前で行い、合わせて43,233円の支援が集まりました。



アンケートより

世界の衛生環境の現状を知り、日本で当たり前のことが当たり前でないことに気がかれ、もっと積極的に世界のことにについて知りたくなりました。直接手を貸すことができなくても、募金活動などを通じて自分たちに出来る支援をしたいと思います。

メンバーの声

金沢伏見高校 1年 高草木太葉・福田拓実

近江町市場前での募金活動は、最初は恥ずかしくて大きな声が出せませんでしたが、募金してくれる人が増えてくると、頑張ろうという気持ちも強くなりました。勇気を出して声をかけることの重要性に気付くことができました。



●JRCで実践できる海外支援「1円玉募金」とは…



子どもたちが日ごろのお小遣いを倅約し、世界で苦しんでいる同世代の子どもたちのために募金活動(1円玉募金)をすることによって「奉仕」の心を学びます。集まった善意は、ネパールの衛生環境の改善やバスマツでの防災教育事業に役立てられます。

平成30年度行事予定

月	日	行事名
5	19(土)	救護ボランティア基礎研修
6	1(金)	高校JRC大会
	2(土)	金沢百万石まつり救護・迷子捜索ボランティア
7	28(土)～30(月)	リーダーシップ・トレーニング・センター
9	15(土)	高文連JRC部救急法競技大会

※本社主催行事への参加者は原則「リーダーシップ・トレーニング・センター」修了者の中から推薦します。

行事予定ピックアップ

平成30年度開催予定のJRC行事を紹介します。

JRC国際交流

国際理解・親善

日本赤十字社本社が2年に1度、アジア・大洋州からの赤十字ユースメンバーを招き、開催する国際交流集會に併せ、石川県支部でも県内JRCメンバーと海外ユースメンバーが国際交流を行います。

国際交流集會

県内の高校JRC、学生奉仕団、青年奉仕団のメンバーが海外から来訪したユースメンバーと、お互いの国や学校などについて紹介をし、国際理解を深めます。

学校訪問

JRC加盟校が海外ユースメンバーを招き、交流会を行います。日本の伝統的な文化についての紹介、日本と海外との違いについて意見交換を行う学校や、防災授業の様子を見学してもらう学校などさまざまな交流を行います。

本社主催国際交流集會「Tokyo2018」

各都道府県からのJRCメンバーや、アジア・大洋州からの青少年赤十字・赤新月メンバーが集まる交流会では、各国が直面する災害、紛争、貧困、衛生、教育などのさまざまな問題についてディスカッションを行います。



スタディー・センター

山梨県の山中湖にある宿泊施設に全国の青少年赤十字高校生メンバーが集い、防災や国際問題などについて学ぶ「青少年赤十字スタディー・センター」を実施しています。研修会では、リーダーシップの必要性やその真意についてグループワークを体験することで学び、実際にフィールドワークのなかで地元の方に取材することを通じて、多様な価値観や個別の事情を抱えている方に対して何ができるのかを考えます。



メンバーの声

金沢錦丘高校 2年 小島志織

全国からJRCメンバーが集まり、最初はとても緊張し思うように話せませんでした。しかし、様々な活動を通して全国の友達ができたうえに、自分で考え、積極的に行動する大切さを学び、精神的に少し成長できたと思います。

気づき、考え、実行する。

いしかわ青少年赤十字NEWS



高校生号

JRC3つの実践目標

健康・安全

いのちと健康を大切にする

奉仕

人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する

国際理解・親善

広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う



百万石まつり・ 救護ボランティア基礎研修

6月3日(土)に開催された「金沢百万石まつり」に、JRCメンバー6校70名(松任、翠星、金沢錦丘、金沢辰巳丘、金沢向陽、津幡)が救護・迷子搜索活動を行い、7名の迷子全員を家族の元へ送り届ける手助けをしました。参加メンバーは、事前に「救護ボランティア基礎研修」を受講し、無線通信や心肺蘇生、AEDの操作方法などを学んで当日に臨みました。



健康・安全 奉仕



メンバーの声

県立津幡高校 2年 東りょう

幼少期に迷子になった経験から、迷子になった子供たちの気持ちが私にも理解できます。不安だったと思うし、パニックになっていたと思います。だから、今回迷子の子供たちが無事に親元へ帰ることができてホッとしました。また参加して、不安になっている子供たちを安心させてあげたいと思います。

活動の様子を取材して頂きました！

金沢百万石まつりでの赤十字ボランティアの活動の様子を2017年6月5日(月)放送の石川テレビ「石川さんみんなのニュース」にて取り上げて頂きました。



取材動画が見られます！



高文連JRC部赤十字救急法競技大会

9月16日(土)、石川県高等学校文化連盟JRC部が主催する救急法競技大会が、金沢北陵高等学校で開催され、JRCメンバー8校47名(翠星、金沢錦丘、金沢二水、金沢伏見、金沢辰巳丘、金沢北陵、金沢向陽、金沢学院)が参加し、心肺蘇生や三角巾を使ったぎずの手当について手技の正確さや早さを競いました。終了後には、審判員として参加した指導員が大会を振り返り、手当のポイントや改善点等を指導し、さらなる技術向上を誓いました。



メンバーの声

金沢学院高校 2年 坂本貴帆

大会では、夏のトレセン合宿で学んだことを出し尽くそうと思って臨みました。結果発表で自分の名前が呼ばれた時は信じられませんが、とても嬉しかったです。今後、学んできたことを活かし、人の役に立ちたいと思います。

メンバーの声

金沢北陵高校 2年 向平実樹

今回初めて救急法競技大会に参加しました。私は放課後に部員のみんなで練習を重ねていたので本番は落ち着いて競技に臨めました。今後は大会で学んだことを忘れずに人の役に立てるようになりたいです。

平成29年度 入賞者

第1位 坂本 貴帆(金沢学院高校)
第2位 橋本 心優(金沢錦丘高校)
第3位 宮川 秋季(金沢辰巳丘高校)
第4位 柿木 杏(金沢錦丘高校)
第5位 向平 実樹(金沢北陵高校)
第6位 小寺 菜月(金沢二水高校)

青少年赤十字加盟校の活動

県内各地で、各JRC加盟校が「気づき、考え、実行する」という態度目標のもと、さまざまな活動を行っています。今号では、児童・生徒との交流を通したボランティアを行う加盟校の活動を紹介します。

羽咋高校JRC部

児童センターでのイベント運営ボランティア

8月18日(金)千里浜児童センターで、「子ども縁日」の運営ボランティアに参加しました。地域の子どもたちが集まり、数々のゲームを楽しむ行事です。その運営補助として、JRC部から5名の部員が集まりました。会場設営から始まり、ヨーヨー釣りや射的、輪投げといったゲームの手伝い(ルールの説明や賞品の受け渡しなど)、最後の後片付けまでを行いました。初めは緊張した様子もありましたが、次第に参加した子どもたちと一緒に楽しみながら活動し、とても充実した1日となりました。



メンバーの声

県立羽咋高校 2年
川西晴・板坂梨央

最初はとても緊張しましたが、指導員の方々が親切に話しかけてくれたり、子どもたちから話しかけてくれたりして、とても楽しく活動することができました。この経験を今後も活かしていきたいです。



金沢北陵高校JRC部

文化祭を通した特別支援学校との交流

金沢北陵高等学校JRC部は、毎年、石川県立いしかわ特別支援学校肢体不自由教育部門高等部との交流をさせていただいています。9月に本校文化祭「北陵祭」に招待し、11月にはいしかわ特別支援学校の文化祭の手伝いとして参加させていただいています。模擬店の調理や販売の手伝いでは、車いすを押しながら歩いたり、休憩時間に校内を一緒に回り、飲食したりしました。部員からは、「喜んでもらえてよかった」「意外と話すことで自分でも驚いた」という感想があり、部員たちにとって貴重な経験をさせていただいています。



メンバーの声

金沢北陵高校 1年
中澤紗希

初めてで不安ばかりでしたが、特別支援学校の皆さんが温かく迎えてくれたので、うれしかったです。学校のことや将来何になりたいのかなど、生徒同士でたくさん話すことができました。また機会をとらえて参加したいです。

翠星高校ボランティア部

学童クラブでの充実した経験

白山市立松陽小学校の学童クラブは「いるか」と「ペンギン」の二つに分かれており、児童は学校の放課後から終わりの会までの時間を思い思いに過ごします。私たちは毎月数回、両クラブを訪問し、ボランティア活動を行っています。ボードゲームなど遊びの相手、児童たちの遊びの見守り、指導員の先生の補助で児童の生活のお世話、宿題のアドバイスなどの活動に取り組んでいます。また夏休み中は朝からずっと児童たちと過ごし、水遊びやプールなど季節ならではの遊びがあり、明るく元気いっぱいの子供たちと過ごすことで私たちが充実した活動を行うことができました。



メンバーの声

県立翠星高校 2年
山口美月・長谷川千乃

最初はちゃんと子供たちの相手が務まるか心配だったけど、子供たちから積極的に話しかけてきてくれ、逆に元気をもらっている感じです。単に遊びやお話しの相手をするだけでなく、友達同士のトラブル解決法を学べるなどボランティアに参加できてよかったです。

リーダーシップ・トレーニング・センター(トレセン)

7月29日(土)から31(月)、国立能登青少年交流の家(羽咋市)で開催された「青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター」に県内の小学生から高校生

のJRCメンバー57名が参加しました。参加メンバーは、赤十字の歴史や基本原則、防災教育プログラム、心肺蘇生や三角巾を使ったぎずの手当などを学んだほか、野外活動のフィールドワークでは、グループで協力し合い、問題を解決していきました。また、野外炊飯やキャンプファイヤーも催され、楽しみながら友情を深めました。



トレセンのフィールドワークとは？

会場となった施設の周りを使い、グループごとに決められた指示(ルール)のもと、5つの関所に用意された問題をトレセンの中で学んだ知識・技術をもとに協力し合いながら解決していきます。

フィールドワーク5つの関所紹介

新聞紙でなにができるか

避難所にいる想定のもと、新聞紙を使ってなにができるのかグループでたくさん意見を出し合います。

救急法の実習

フィールドワークの道中、ケガをして困っている傷病者に対し、三角巾を使いグループで協力して手当を行います。

赤十字7原則クイズ

事前に学習した赤十字の7原則(人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性)について答えを協力して導き出します。

絵伝令

お題となる見本をはじめの1人に見せ、絵を時間内に順に書き写して、最後の人

暗闇体験

グループ全員が目を隠し、ロープと声の掛け合いを頼りにして、森の中を進みます。自分から声を出し合い、みんなをリードするリーダーシップが必要となります。



メンバーの声

金沢辰巳丘高校 2年 荒木竜司

この合宿でリーダーとして必要な知識や技術を身につけるために様々なプログラムを行いました。どのプログラムもグループのみんなで協力し合うことができ、お互いを励まし高め合うことができました。ここで得た知識や技術、そして、リーダーとしての心構えをこれからのボランティア活動に活かしていきたいです。

メンバーの声

金沢二水高校 2年 小寺菜月

リーダーシップ・トレーニング・センターでは、人との関わりにおいて求められる姿勢を学ぶことができ、これは学校生活だけでなく様々な場面で活かせる大切なことだと感じました。これを機に、周囲の人の心にもっと寄り添った行動を意識していきたいと思います。



きっと忘れられない
経験ができます

ハートちゃん

開催予定

平成30年度 リーダーシップ・トレーニング・センター

●日 程：7月28日(土)～30日(月) 2泊3日
●会 場：国立能登青少年交流の家(羽咋市)